

FXChartPredictor2 操作マニュアル

1. 概要

FXChartPredictor2は、機械学習アルゴリズムを使用してFXチャートの次のローソク足の方向性を予測するMetaTrader 4用のExpert Advisorです。

2. インストール方法

- MetaTrader 4を起動します
- 「ファイル」→「データフォルダを開く」をクリック
- 「MQL4」→「Experts」フォルダを開く
- FXChartPredictor2.ex4ファイルをコピー
- MetaTrader 4を再起動またはナビゲーターで更新

3. 基本パラメーター設定

パラメーター名	デフォルト値	説明
マジックナンバー	250825	取引識別用の番号
ロット数	0.1	取引ロットサイズ
ストップロス	100	損切り設定（ポイント）
テイクプロフィット	200	利確設定（ポイント）

4. 重要パラメーターの詳細説明

4.1 最小信頼度 (MinConfidence)

概要

最小信頼度は、自動売買を実行する際の予測信頼度の最低基準を設定するパラメーターです。この値により、どの程度確実な予測の時のみ取引を実行するかを制御できます。

動作原理

システムは予測確率（陽線/陰線）から信頼度を以下の式で計算します：

$$\text{信頼度} = |\text{予測確率} - 0.5| \times 2$$

$$\text{例：陽線確率70\%} \rightarrow \text{信頼度} = |0.7 - 0.5| \times 2 = 0.4$$

この信頼度がMinConfidence未満の場合、取引は実行されません。

数値を上げた場合の影響

例：0.05 → 0.2に変更

- メリット：より確実な予測のみで取引実行
- 効果：取引回数は減少するが、勝率が向上
- 適用場面：安定性重視、リスク回避型の運用
- 注意点：利益機会の減少、過度に保守的になる可能性

数値を下げた場合の影響

例：0.05 → 0.01に変更

- メリット：より多くの取引機会を獲得
- 効果：取引回数は増加するが、勝率が低下する可能性
- 適用場面：積極的な運用、多頻度取引
- 注意点：リスク増加、ノイズトレードの可能性

推奨設定

運用スタイル	推奨値	特徴
保守的	0.1 - 0.2	高精度、低頻度
標準	0.05 - 0.1	バランス型
積極的	0.02 - 0.05	高頻度、リスク許容

4.2 パターン長（足数）（PatternLength）

概要

パターン長は、チャートパターンの特徴抽出に使用する過去のローソク足の本数を指定するパラメーターです。この値により、どの程度の期間のパターンを学習・分析するかを制御できます。

動作原理

システムは現在から過去N本のローソク足のOHLC比率を分析し、以下の特徴量を抽出します：

各足について：

- 高値/安値比率 = (高値 - 安値) / 始値
- 終値/始値比率 = (終値 - 始値) / 始値

これらの特徴量パターンで類似の過去パターンを検索

数値を上げた場合の影響

例：10 → 20に変更

- メリット：より長期的なトレンドパターンを認識
- 効果：大きなトレンド変化を捉えやすくなる
- 適用場面：スイングトレード、トレンドフォロー戦略
- 注意点：計算負荷増加、短期変動への反応鈍化

数値を下げた場合の影響

例：10 → 5に変更

- メリット：短期的なパターン変化に敏感に反応
- 効果：スキャルピング的な短期取引に適応
- 適用場面：デイトレード、短期売買
- 注意点：ノイズの影響を受けやすい、誤判定増加

時間足別推奨設定

時間足	推奨パターン長	理由
M1, M5	5 - 8	短期ノイズ除去、迅速な反応
M15, M30	8 - 12	標準的なパターン認識
H1, H4	10 - 15	中期トレンド把握
Daily	15 - 25	長期パターン分析

4.3 学習履歴足数 (HistoryBars)

概要

学習履歴足数は、機械学習モデルの訓練に使用する過去のローソク足データの本数を指定するパラメーターです。この値により、どの程度の期間のデータから学習するかを制御できます。

動作原理

システムは過去N本のローソク足データから学習パターンを抽出し、予測モデルを構築します：

- 学習プロセス：
1. 過去N本のデータからパターンを抽出
 2. 各パターンとその後の結果（陽線/陰線）を記録
 3. この学習データで予測モデルを構築
 4. 現在のパターンと類似パターンを比較して予測

数値を上げた場合の影響

例：20,000 → 50,000に変更

- メリット：より多くの学習データで高精度な予測
- 効果：様々な市場状況のパターンを学習
- 適用場面：長期安定運用、多様な市場環境対応
- 注意点：初期化時間増加、メモリ使用量増加

数値を下げた場合の影響

例：20,000 → 5,000に変更

- メリット：最近のデータのみで学習、現在の市場状況に適応
- 効果：高速初期化、最新トレンドへの適応
- 適用場面：短期集中運用、市場環境変化への対応
- 注意点：学習データ不足による精度低下の可能性

市場環境別推奨設定

市場環境	推奨履歴足数	理由
安定相場	30,000 - 50,000	長期パターンの安定性活用
標準相場	15,000 - 25,000	バランスの取れた学習
変動相場	5,000 - 15,000	最新トレンドへの迅速適応
急変相場	3,000 - 8,000	直近パターンの重視

重要な注意事項：

- 履歴足数が少なすぎると（1,000本未満）、学習データ不足で予測精度が大幅に低下します
- 履歴足数が多すぎると、古いデータの影響で現在の市場状況に適応できない場合があります
- 初回起動時は設定した履歴足数分のデータ読み込みに時間がかかります

5. パラメーター組み合わせ例

5.1 保守的設定（安定重視）

- 最小信頼度：0.15
- パターン長：15
- 学習用履歴足数：30,000
- 特徴：高精度、低頻度、安定した運用

5.2 標準設定（バランス型）

- 最小信頼度：0.05
- パターン長：10
- 学習用履歴足数：20,000
- 特徴：精度と頻度のバランス

5.3 積極的設定（機会重視）

- 最小信頼度：0.02
- パターン長：7
- 学習用履歴足数：10,000
- 特徴：高頻度、迅速な市場適応

6. 使用方法

1. チャートにEAをドラッグ&ドロップ
2. パラメーターを設定
3. 「自動売買を許可する」にチェック

4. 「OK」をクリックして開始

7. 注意事項

- デモ口座での十分なテストを推奨します
- 市場状況に応じてパラメーターの調整が必要です
- 過去の成績は将来の結果を保証するものではありません
- リスク管理を徹底し、適切な資金管理を行ってください

FXChartPredictor2 操作マニュアル

Version 2.0 - 2024年